

平成28年4月26日
ソリッドファイアー・ジャパン株式会社
北海道総合通信網株式会社
北陸通信ネットワーク株式会社
株式会社エネルギア・コミュニケーションズ

エネコムを含む通信キャリア3社とソリッドファイアー・ジャパン社によるオールフラッシュストレージを活用した災害対策環境の実証実験の実施について

～北海道、北陸、中国(広島市)のデータセンターを相互に連携させたデータレプリケーション(※1)に、ソリッドファイアー・ジャパン社のオールフラッシュストレージ(※2)を活用し、災害発生時の各拠点間でのデータのリカバリーと顧客サービスの継続を実証～

次世代データセンター構築のためのオールフラッシュストレージシステムのリーダーであり、現在ネットアップ(NASDAQ: NTAP)の一部門となっているソリッドファイアー・ジャパン株式会社(本社:東京都港区、代表取締役社長:岡田 義一、以下ソリッドファイアーという)は、北海道総合通信網株式会社(本社:北海道札幌市、取締役社長:宮本 英一、以下HOTnetという)、北陸通信ネットワーク株式会社(本社:石川県金沢市、取締役社長:松島 英章、以下HTNetという)および株式会社エネルギア・コミュニケーションズ(本社:広島県広島市、取締役社長:熊谷 鋭、以下エネコムという)と協力し、ソリッドファイアーのオールフラッシュ ストレージを活用した遠隔地レプリケーションの実証実験を実施しました。

この実証実験により、HOTnet、HTNet、エネコムの3社(以下、通信キャリア3社という)では、災害発生時にそれぞれが北海道、北陸、中国(広島市)に持つデータセンター間を相互に接続したデータレプリケーション環境の構築とその運用に関する知見を得たことで、今後の災害時の通信サービスへの活用や利用者向けサービスのさらなる改善に生かしていく予定です。

現在、クラウド事業者ではデータセンターの管理性の向上や、ビッグデータなど増加を続けるデータを最大限活用するためのストレージ基盤として、オールフラッシュ ストレージの導入が急速に進んでいます。また、フラッシュの低価格化やさまざまな利用環境で必要とされる機能や信頼性の向上も進んでおり、今後もデータセンター環境でのさらなるオールフラッシュ ストレージの普及が見込まれています。

【実証実験の経緯】

今回、通信キャリア3社では、従来のHDDベースのストレージとは異なる高速なオールフラッシュ ストレージを基盤とした災害対策環境でのネットワークへの影響など、その構築や運用の指針を得る目的で、ソリッドファイアーのオールフラッシュ ストレージを活用したデータレプリケーションの実証実験を実施しました。

また、災害対策として、遠隔地の拠点を連携させたデータ復旧環境へのニーズも高まっていることから、北海道、北陸、中国でそれぞれ通信事業に携わる3社が協力し、オールフラッシュ ストレージを活用して相互にデータを持ち合う環境を実際に構築し、検証を行いました。

【実証実験の概要】

- 通信キャリア3社が運営する北海道、北陸、中国(広島市)の3拠点のデータセンターにそれぞれ配置されたソリッドファイアーのオールフラッシュ ストレージを連携させ広域分散ストレージクラスタを構成し、各拠点間でデータレプリケーションを実施
- 加えて、特定拠点のシステムを停止させ、その他の拠点でデータの復旧を行いながら利用者へのサービスを継続するための構成や運用など、実際に災害が発生することを想定した状況での検証も実施

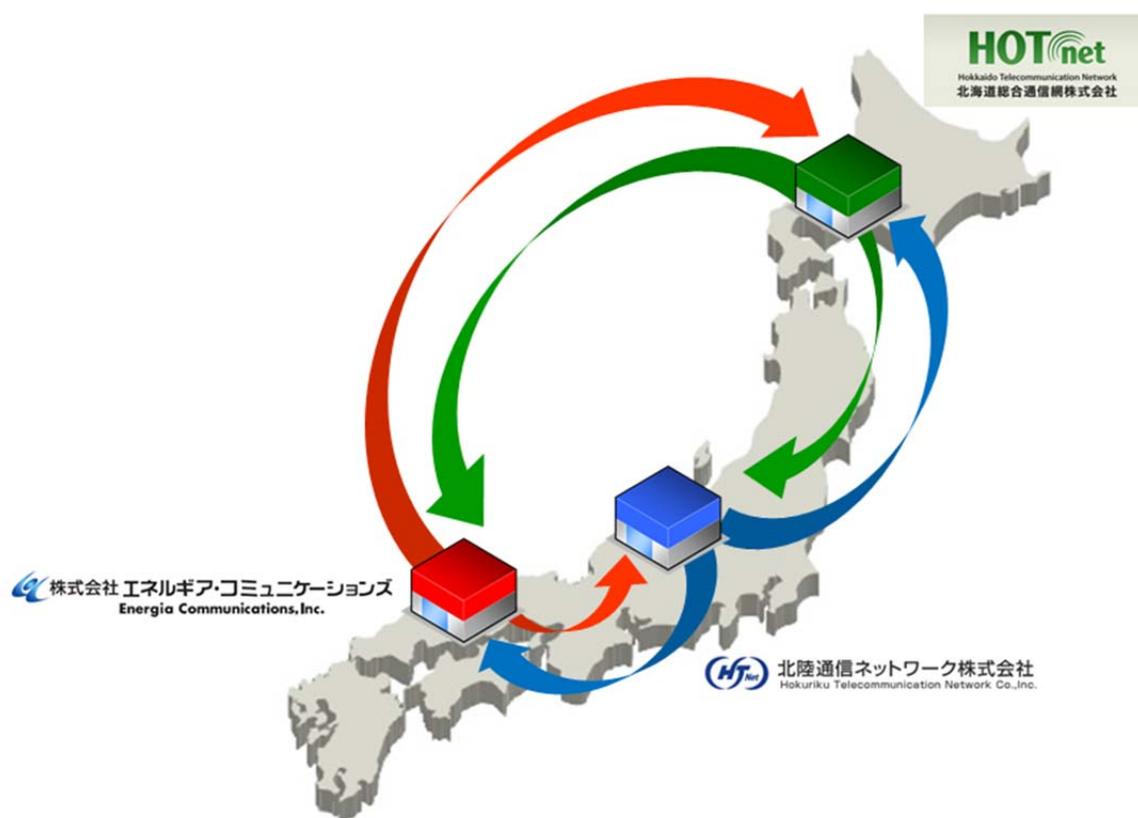
【実証実験の結果】

ソリッドファイアーならびに通信キャリア3社による実証実験の結果、拠点間でのレプリケーションを行う際に必要な回線帯域や必要となるシステム構成とリソース、そして実際の運用時に必要となるオペレーション面の要件など、さまざまな状況での知見を獲得しました。特に、災害発生時に想定される回線帯域の制限に対応するために、ソリッドファイアーのフラッシュストレージが備える重複排除やデータ圧縮による送信データの軽量化などの機能が災害発生時にも有効であることが確認できました。

【今後の各社の展開】

通信キャリア3社では、今回の実証実験で得られた知見などを活用し、今後もソリッドファイアーのオールフラッシュストレージを最大限活用したクラウド基盤の運用性の向上などに取り組んでいく予定です。

【遠隔地データレプリケーション実証実験のイメージ】



(※1) データレプリケーションとは、データバックアップなどの際に元データをバックアップ先に複製することをいう。

(※2) ソリッドファイアーのオールフラッシュストレージの詳細は下記URLをご参照ください。

<http://www.solidfire.jp/storage-system?locale=ja>

以上

北海道総合通信網株式会社について

北海道総合通信網は、北海道地域を主な事業エリアとし、地域経済活動の活性化に貢献すべく、多彩な情報通信サービスを展開しています。また、平成29年春を目途に、都市型データセンター「S.T.E.P 札幌データセンター」のサービス開始を予定しています。

詳細は、http://www.hotnet.co.jp/event_news/2015/10/step_dc.html をご覧ください。

北陸通信ネットワーク株式会社について

北陸通信ネットワークは、“あなたの会社のビジネスを拓げるHTNetの光ネットワーク”をキャッチフレーズに、北陸地域を主な事業エリアとして、高品質で信頼性の高い情報通信サービスを展開しています。

詳細は、<http://www.htnet.co.jp> をご覧下さい。

株式会社エネルギー・コミュニケーションズについて

エネルギー・コミュニケーションズ(略称:エネコム)は、主に中国地域を事業基盤として、地域に根差した情報通信事業(電気通信事業と情報処理事業)を展開しています。また、EneWings広島データセンターを平成28年12月にサービス開始予定です。

詳細は、<http://www.enecom.co.jp/> をご覧ください。

また、EneWingsデータセンターの詳細は、http://www.enecom.co.jp/business/enewings/data_center/index.html をご覧ください。

ソリッドファイアージャパン株式会社について

ソリッドファイアージャパンは、次世代データセンター向けに構築されたオールフラッシュ型ストレージのマーケットリーダーです。サービス品質(QoS)コントロール機能を備えたソリッドファイアーのオールフラッシュアーキテクチャを導入することで、1つの共有基盤において数千のアプリケーションに対するストレージパフォーマンスが保証されます。この機能をインラインのデータ削減技術およびシステム全体の自動化機能と組み合わせることで、従来のディスクベースやベーシックなオールフラッシュ型のストレージシステムと比べて、資産コストと運用コストを大幅に削減することができます。

詳細は、<http://www.solidfire.jp/> をご覧ください。

本件に関するお問い合わせは、下記までお願いします。

通信技術本部 伝送設備部

担当 武田

TEL: 050-8201-2980

FAX: 082-256-1391

E-Mail: h-takeda@enecom.co.jp